

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<b>1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）</b>
諏訪中央病院家庭医療専門研修プログラム

<b>2. プログラム責任者</b>			
氏名	奥 知久	指導医認定番号	2014-1134
所属・役職	診療部総合診療科医師		
所在地・連絡先	住所 〒391-8503 長野県茅野市玉川4300番地 電話 0266-72-1000 FAX 0266-72-4120 E-mail okutomo014@gmail.com		
連絡担当者氏名*・役職	前嶋 真理 事務部総務課、 伊東 敦彦 事務部総務課		
連絡先*	電話 0266-72-1000 FAX 0266-72-4120 E-mail kensyu@suwachuo.jp		

\* プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合にのみ記載

<b>3. 専攻医定員</b>
1年あたり（ 6 ）名 （×研修期間年数＝総定員 18 名）
※総合診療専門研修ⅠおよびⅡにおいて、日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医認定制度要綱 28 条に定める常勤指導医を、その部署で同時に研修する専攻医 3 名に対して 1 名以上配置できる人数に留めること。例えば、総合診療専門研修Ⅰが 9 カ月の場合、3 名ずつが 9 カ月毎にローテートするならば、3 年＝36 カ月のプログラムで 1 年あたり最大 4 名（36÷9＝4）まで受け入れ可能となる。

<b>4. プログラムの期間</b>
（ 3 ）年間

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

## 5. 概要

### A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長

諏訪中央病院は長野県茅野市に位置し、茅野市、原村、諏訪市の組合立の病院です。諏訪二次医療圏に属し、上小医療圏や中北医療圏(山梨県)と隣接しています。救急医療から急性期、慢性期医療、在宅医療や緩和ケア等の終末期医療までカバーするケアミックス病院であり、また地域における医療-介護-保健福祉連携を推進する役目を担っています。それと同時に住民教育やコミュニティー支援を通じて地域住民の自助・互助・共助関係の維持発展に努めています。「あたたかな急性期病院」をスローガンに様々な地域ニーズ・医療ニーズに応えることが諏訪中央病院や連携施設群の使命です。

### B. プログラムの理念、全体的な研修目標

「八ヶ岳の裾野の様に幅広い臨床力を身に付ける」これが諏訪中央病院の初期臨床研修、家庭医療プログラム共通の研修理念です。限られたリソースを駆使しながら担当患者や家族、当該地域住民やコミュニティーに資する医師となり、かつ専門医取得後に他地域に移動した際にも当該地域のニーズに合わせて地域医療を支えることのできる医師になるための研修環境が用意されています。専門医認定医認定制度要綱の行動目標に定める家庭医を特徴出来る能力、家庭が持つ医学的な知識と技術、すべての医師が備える能力を実際の業務や研修を通して獲得できるように研修は工夫されています。そして、各研修者が絶えざる自己研鑽を重ねながら果たすべき役割を見出し、成長していくことをサポートします。

### C. 各ローテーション先で学べる内容や特色

本研修プログラムでは、①総合診療専門研修Ⅰ（小病院・診療所）、②総合診療専門研修Ⅱ（病棟診療、救急診療中心）、③内科、④小児科、⑤救急科の5つの必須診療科と選択診療科で3年間の研修を行います。各施設ではそれぞれの特徴を生かした症例や技能を広く、専門的に学ぶことができます。

研修は①臨床現場での学習、②臨床現場を離れた学習、③自己学習の大きく3つに分かれ、それぞれの学び方に習熟し、生涯に渡って学習していく基盤とすることが求められます。

#### ①臨床現場での学習

職務を通じた学習（On-the-job training）を基盤とし、診療経験から生じる疑問に対して EBM の方法論に則って文献等を通じた知識の収集と批判的吟味を行うプロセスと、総合診療の様々な理論やモデルを踏まえながら経験そのものを省察して能力向上を図るプロセスを両輪とします。その際、学習履歴の記録と自己省察の記録をポートフォリオ（経験と省察のファイリング）作成という形で全研修課程において実施します。また、屋根瓦式教育チーム体制をとっており、研修医や実習学生に対して1：1の指導を行う機会、レクチャー等の教育セッションを行う機会、また多職種スタッフに対しての連携向上や知識技術向上のためのセッションを行う機会があります。これらを通して教育領域の能力向上を図ります。

場に応じた教育方略は次のとおりです。

#### (ア)外来医療

総合外来を担当し、経験目標を参考に幅広い経験症例を確保します。具体的には外来診察中に指導医への症例提示と教育的フィードバック、ふりかえり等を行う外来教育法（プリセプティング）や診療場面をビデオ等で直接観察してフィードバックを受けるビデオレビュー、指導医による定期的な診療録レビュー、外来症例ケースカンファレンスを行います。技能・態度領域についても直接観察やビデオレビューを通じ、習熟度に応じた指導を提供します。

#### (イ)在宅医療

救急～病棟～在宅までのシームレスなケアの提供を組織をあげて取り組んでおり、総合診療専門研修Ⅰの時期のみならず、その他の研修期間中においても病棟研修中に担当した事例の訪問診療を担当する等の機会を得ることができます。基幹施設には常時 120 名程度の在宅患者がおり、在宅看取り例や神経難病、がん・非がんターミナル、慢性臓器不全、認知症、心理社会的困難事例等幅広い経験をバランスよく得ることができます。指導医の同行訪問や毎週の在宅ミーティングを通して常に在宅医療に関わる認知・情意・精神運動領域の能力についてフィードバックを受けることができます。組織内の緩和ケア病棟・地域包括ケア病棟・療養病棟・リハビリ病棟・老人保健施設・特

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

別養護老人ホームと在宅との関連を退院・入院調整や多職種カンファレンスの中から学ぶことができます。

#### (ウ)病棟医療

総合診療科において経験目標にあるような多彩な経験を積むことができます。ICU、急性期、地域包括ケア、回復期、療養病棟のいずれのケースも担当し、必要に応じて病院総合医・家庭医専門医・臓器別専門医の指導を受けながら入院担当患者のマネジメントを進めていきます。屋根瓦式のチーム体制を採用しており、回診、チームカンファレンスに加え、総合診療ミーティング、昼の臨床推論カンファレンス、内科・総合診療科カンファレンス、総合診療勉強会、CPC等を通じて診断・検査・治療・退院支援・地域連携のプロセスに関する理解を深めます。指導医による診療録レビューや手技の学習法は外来と同様です。

#### (エ)救急医療

経験目標を参考に救急外来や救命救急室等で幅広い経験症例を確保します。外来診療に準じた教育方略となりますが、特に救急においては迅速な判断が求められるため救急特有の意思決定プロセスを重視します。また、救急処置全般については技能領域の教育方略（シミュレーションや直接観察指導等）が必要となり、特に、指導医と共に処置にあたる中から経験を積みます。

#### (オ)地域ケア

地域医師会の活動、医師会医師むけ勉強会（毎月開催）、ポートフォリオ発表会等を通じて地域の実地医家との交流の機会を持ちます。また地域包括ケアに関わる行政や介護領域の会議への参加、さらには産業保健活動、学校保健活動等を通して学びを深めます。公民館活動への協力や地域住民のコミュニティーとの協働を通じて自らの診療を支えるネットワークの形成を図り、日々の診療の基盤とします。参画した経験を指導医と共に振り返り、その意義や改善点を理解します。

### ②臨床現場を離れた学習

- ・総合診療の様々な理論やモデル、組織運営マネジメント、総合診療領域の研究と教育については、家庭医療カンファレンスや定期的に院外指導医を招聘しての勉強会を通じて学ぶ機会を得ます。日本プライマリ・ケア連合学会や日本病院総合診療医学会等の関連する学会の学術集会やセミナー、研修会へ参加し、研修カリキュラムの基本的事項を履修します。
- ・医療倫理、医療安全、感染対策、保健活動、地域医療活動等については、院内で開催する倫理研修会、医療安全研修会、感染対策研修会、地域医療講演会や日本医師会の生涯教育制度や関連する学会の学術集会等を通じて学習を進めます。地域医師会における生涯教育の講演会は、診療に関わる情報を学ぶ場としてのほか、診療上の意見交換等を通じて人格を陶冶する場として活用します。

### ③自己学習

研修カリキュラムにおける経験目標は原則的に自プログラムでの経験を必要としますが、やむを得ず経験を十分に得られない項目については、総合診療領域の各種テキストやWeb教材、更には日本医師会生涯教育制度及び日本プライマリ・ケア連合学会等における e-learning 教材、医療専門雑誌、各学会が作成するガイドライン等を適宜活用しながら、幅広く学習します。指導医との定期的なふりかえりや勉強会により研修者本人の自己主導型学習をサポートする体制としています。

### 連携施設群における研修

本プログラムにおいては総合診療専門研修Ⅰ、小児科研修、救急研修において連携施設群における研修体制が可能です。

各連携施設における研修中も指導医のサイトビジットにおける振り返り、ポートフォリオ指導などが受け取ることができます。

サイトビジット時には各施設担当者とプログラム責任者との面談にて、プログラム自体の形成的評価を行い、研修者にとっての学習環境の向上に努めます。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

**D. 指導体制に関する特長**

総合診療専門研修指導医が総計 15 名、具体的には諏訪中央病院に 9 名、リバーサイドクリニックに 2 名、原村診療所に 1 名、国保依田窪病院に 2 名(按分後)、富士見高原医療福祉センターに 1 名在籍しております。

なお、指導医は、日本プライマリ・ケア連合学会認定のプライマリ・ケア認定医が 9 名、家庭医療専門医が 4 名、初期臨床研修病院にて総合診療部門に所属し総合診療を行う医師 3 名、地域において総合診療を実践している医師 2 名が参画しています(プライマリ・ケア認定医と家庭医療専門医の両取得者有り)。

**E. 医療関係職種、保健・福祉関係職種、地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法**

地域での健康増進活動

実施予定場所

総診Ⅰの医療機関、地区公民館、保健福祉サービスセンター 基幹施設のドッグ健診センター等

実施予定の活動

総診Ⅰ研修中に学校医、各種検診事業、地域の福祉健康関連会議への出席

総診Ⅱ中のドッグ外来

常時開催される地区の公民館活動や保健補導員、食生活改善推進委員の活動協力、講演等

実施予定時期

総診Ⅰ期間中は必須、その他の期間においても適宜参加

**F. その他**

**G. モデルとなるローテーション例**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	小児科	小児科	小児科	救急科	救急科	救急科
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	内科	内科	内科	内科	内科	内科	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	その他	その他	その他	その他	その他	その他

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

**H. プログラムの全体構成（月単位の換算による）**

総合診療専門研修	総合診療専門研修Ⅰ ( 6 ) カ月		総合診療専門研修Ⅱ ( 12 ) カ月	
領域別研修	内科 ( 6 ) カ月	小児科 ( 3 ) カ月	救急科 ( 3 ) カ月	その他 ( 6 ) カ月

※救急科が兼任研修の場合の記載法：例えば内科 8 カ月、小児科 4 カ月の間週 1 回救急科研修したら、内科 6 カ月、小児科 3 カ月、救急科 3 カ月というふうに、本来の研修先の研修期間（この場合内科＋小児科の 12 カ月）のうち救急科研修の期間をプログラムに必要な長さにとり、本来の研修先の研修期間（内科 8 カ月と小児科 4 カ月）は救急科研修の期間を減じた形（内科は 8→6 カ月、小児科は 4→3 カ月）で記載して下さい。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<b>6-1. 総合診療専門研修 I</b>					
研修施設名	リハ・サイドクリニック		診療科名 ( 内科 )		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院		施設が病院のとき→ 病院病床数 ( ) 床    診療科病床数 ( ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		( 6 ) カ月			
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり				
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。					
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)				
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。					
指導医氏名 1	安藤 親男	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 2012-282 )	
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )	
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )	
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))					
<b>ケアの内容</b>					
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加					
<b>施設要件</b>					
<input type="checkbox"/> 患者層：当該診療科において (施設全体ではない) 専攻医の経験する症例は、学童期以下が 5%以上、後期高齢者が 10%以上である。					
<input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 ( )					
<input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 (患者の 10%以上が後期高齢者である。学童期以下の患者は 5%未満だが、諏訪地域小児夜間急病センター担当 (月 1 回以上)。また通常外来でも小児例は専攻医外来に集中し、経験実数は豊富である。)					
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (診療時間外は留守番電話で対応し必要に応じて当院医師から連絡を取る体制をとっている。また、訪問診療患者については担当医師の携帯電話に連絡してもらい、必要に応じて往診する体制をとっている。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (外来患者は原則予約制をとっており、研修医が同一患者を継続的に診療できる体制としている。訪問診療患者も定期の訪問は計画的に訪問予定を作成して訪問するようにしている。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (外来診療では入院適応のない急性疾患の加療、他院退院後の慢性期の患者の治療の継続、特定健診、事業所健診、各種予防接種の実施、また地域に出向いての健康教育活動の実施等を行っている。緩和ケアについては主としてがん患者の在宅ターミナルケアに携わっている。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (他院各科専門医への紹介、他病院への入院依頼、他医療機関からの逆紹介の受け入れ等を行うことで様々な医療機関と連携している。また在宅医療についても複数の医療機関と連携し、担当医が臨時の往診に出向くことが難しい場合に代わりに往診を依頼することも行っている。介護・福祉機関との連携については当院には市の地域包括支援センターが併設しており、日常的に連携がとれる体制になっている。他の介護・福祉機関とも FAX・電話等を通じて日常的に情報交換、共有化を図るほか、サービス調整会議にも積極的に参加している。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (定期受診している患者が自分の子供や孫の風邪などの急病で受診したり、親が要介護になったり、認知症が疑われて受診されることもあり、ケースによっては多職種との家族カンファを行っている。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (各地区の高齢者クラブや保健補導員会等の依頼や市の保健師等からの依頼で地区の公民館等に出向き、健康教育活動を行っている。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (1 か月ののべ訪問診療が 70~80 人。うち臨時の往診が月 5, 6 件。24 時間担当医に連絡がとれる体制をとっており、急変時は臨時往診または病状によっては連携している後方病院へ救急搬送している。)					

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

週当たり研修日数：( 5 ) 日/週 ※本研修（総合診療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。	
総合診療専門研修Ⅰ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。	
内容	
日数	日/週

※研修施設が1箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ				
研修施設名	原村国民保健直営診療所	診療科名	( 内科 )	
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき	→ 病院病床数 ( ) 床	診療科病床数 ( ) 床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間		( 6 ) カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	安藤 公二	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 2012-177 )
指導医氏名2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））				
<b>ケアの内容</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加				
<b>施設要件</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 患者層：当該診療科において（施設全体ではない）専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。 <input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 ( )				
<input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補 ( )				
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略（訪問診療患者については看護師の携帯電話に連絡してもらい、必要に応じて往診する体制をとっている。）				
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略（研修医が同一患者を継続的に診療できる体制としている。訪問診療患者も定期的訪問は計画的に訪問予定を作成して訪問するようにしている。）				
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略（外来診療では入院適応のない急性疾患の加療、他院退院後の慢性期の患者の治療の継続、特定健診、事業所健診、各種予防接種の実施、また地域に出向いての健康教育活動の実施等を行っている。村の健康施策作成に関わることができる。緩和ケアについては主に高齢者のターミナル期に関わることができる。）				
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略（他院各科専門医への紹介、他病院への入院依頼、他医療機関からの逆紹介の受け入れ等を行うことで様々な医療機関と連携している。介護・福祉機関との連携については、当診療所は村の保健福祉課の一部であり、地域包括支援センターとは日常的に連携がとれる体制になっている。他の介護・福祉機関ともFAX・電話等を通じて日常的に情報交換、共有化を図るほか、サービス調整会議にも積極的に参加している。）				
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況（定期受診している患者が自分の子供や孫の風邪などの急病で受診したり、親が要介護になったり、認知症が疑われて受診されることもあり、ケースによっては多職種との家族カンファを行って）				



受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。  
それぞれの概ねの頻度（在宅、訪問ともに1日最大5人以下で個人宅へ出向き、その他急変時等に対応。）

週当たり研修日数：（ 5 ）日／週  
※本研修（総合診療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。  
※休日は含まない。

総合診療専門研修Ⅰ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。

内容	
日数	日/週

**6-1. 総合診療専門研修Ⅰ**

研修施設名	富士見高原病院	診療科名（ 内科 ）
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき→病院病床数（161）床 診療科病床数（90）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請（※）	
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。		
指導医氏名1	吉田 憲司	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号（ 2013-641 ）
指導医氏名2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号（ ）
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））		
<b>ケアの内容</b>		
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど		
■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事		
■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加		
<b>施設要件</b>		
■患者層：当該診療科において（施設全体ではない）専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。		
<input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 （ ）		
<input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法（ ）		
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略（24時間、365日、医師が1名以上、交代で病院に常駐しており対応可能。）		
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略（退院後も、当センターが運営する老健施設4か所、特養2か所での継続的なケアが可能。）		
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略（急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアでの研修が可能。）		
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略（附属診療所や運営する介護・福祉施設があるため、多様な研修が可能。）		
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況（地域に密着しており同一家族の構成員が多く受診している。）		
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法（富士見町の検診を定期的実施。）		
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度（訪問診療。 ）		
週当たり研修日数：（ 5 ）日／週 ※本研修（総合診療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

総合診療専門研修Ⅰ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。	
内容	
日数	日/週

<b>6-2. 総合診療専門研修Ⅱ</b>				
研修施設名	組合立諏訪中央病院	診療科名（	総合診療科）	
施設情報	病院病床数（360）床	診療科病床数（50）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		（12）カ月		
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり（分割について具体的に記入してください：専攻医前半で6か月、後半で6か月を原則とする。）			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請（※）			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	奥 知久	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（2014-1134）
指導医氏名2	高木 宏明	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（2013-516）
指導医氏名3	佐藤 泰吾	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（2013-430）
指導医氏名4	若林 禎正	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（2014-0001）
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））				
<b>ケアの内容</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</li> <li>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。</li> </ul>				
<b>施設要件</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>■一般病床を有する</li> <li>■救急医療を提供している</li> </ul>				
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること				
<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（多数の高齢者を外来・救急から急性期～慢性期まで対応。病棟スタッフに家庭医療専門医常駐。）</li> <li>■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（心不全、呼吸器疾患、認知症等複数有していても担当医として専門医と連携しつつ対応。）</li> <li>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（毎週の内科総合診療科カンファレンスでは内科系全科が参加。常に連携をとっている。）</li> <li>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（域内の複雑事例が多数来院し、多職種協働や病診連携、家庭医療指導医の指導の下で取り組む。）</li> <li>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（腫瘍内科や緩和ケア科等でガンの、また総合診療科や各内科で非がんの緩和ケアを経験する。）</li> <li>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（専従退院調整看護師や地域包括ケア病棟、回復期リハビリ病棟等で退院調整や地域連携を学ぶ。）</li> </ul>				
<b>在宅患者の入院時対応</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な体制（在宅地域ケアセンターが常時120名程在宅患者を持ち、専攻医も在宅例を持ちながら入院対応を行う。）</li> </ul>				
<b>外来診療</b> ：以下の診療全てを行っていること				
<ul style="list-style-type: none"> <li>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急総合診療センター外来で臓器別でない内科外来・救急外来を対応する。）</li> <li>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（上記で対応しながら指導医のフィードバックを得る。）</li> <li>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（初診外来・継続外来で経験、毎日の昼のカンファレンスで理解を深める。）</li> </ul>				

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（毎日の昼のカンファレンスで臨床推論を、夕方のカンファレンスでEBMを学習する。）</p>	
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（bio-psycho-social model や家族志向ケア、ICF等を用いたアセスメントを常時指導。）</p>	
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（週1回の内科総合診療科カンファレンス、毎日の診断カンファレンスで診断力を強化する。）</p>	
<p>週当たり研修日数：（ 5 ）日／週 ※本研修（総合診療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。</p>	
内容	
日数	日/週

<b>6-3. 領域別研修：内科</b>			
研修施設名	組合立諏訪中央病院	病院病床数（ 360 ）床	診療科名（ 内科 ）
領域別研修（内科）における研修期間		（ 6 ）カ月	
指導医氏名	山中 克郎	臨床経験年数（ 31 ）年	
有する認定医・専門医資格	日本内科学会総合内科専門医		
要件（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
<b>施設要件</b>			
■医師法第16条の2および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。			
■内科病床数が50床以上ある。（ 181 ）床内科常勤医が5名以上いる。（ 23 ）名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第9条(5)に定める指導医が病院全体として3名以上いる。（ 11 ）名			
週当たり研修日数：（ 5 ）日／週 ※本研修（内科）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
内科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで） ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、小児科は除く。			
内容			
日数	日/週		

※研修施設が1箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

<b>6-4. 領域別研修：小児科</b>			
研修施設名	組合立諏訪中央病院	病院病床数（ 360 ）床	診療科名（ 小児科 ）
領域別研修（小児科）における研修期間		（ 3 ）カ月	
指導医氏名	佐藤 広樹	有する専門医資格（ 日本小児科学会専門医、認定小児科指導医 ）	
要件（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

ケアを学ぶ。

**施設要件**  
 ■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる。  
 ■小児科常勤医がいる。（ 3 ）名

週当たり研修日数：（ 5 ）日／週  
 ※小児科（本研修）は週に4日以上行わなければならない。  
 ※休日は含まない。

小児科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）  
 ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、内科は除く。

内容	
日数	日/週

※研修施設が1箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

**6-4. 領域別研修：小児科**

研修施設名	諏訪赤十字病院	病院病床数（ 455 ）床	診療科名（ 小児科 ）
領域別研修（小児科）における研修期間	（ 3 ）カ月		
指導医氏名	馬場 淳	有する専門医資格（日本小児学会専門医、周産期専門医）	

要件（各項目を満たすとき、を塗りつぶす（のように））

**ケアの内容**  
 ■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。  
 ■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。  
 ■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。

**施設要件**  
 ■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる。  
 ■小児科常勤医がいる。（ 5 ）名

週当たり研修日数：（ 5 ）日／週  
 ※小児科（本研修）は週に4日以上行わなければならない。  
 ※休日は含まない。

小児科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）  
 ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、内科は除く。

内容	
日数	日/週

**6-5. 領域別研修：救急科**

研修施設名	組合立諏訪中央病院	病院病床数（ 360 ）床	年間救急搬送件数（ 2,318 ）件
指導医氏名	五十嵐 一憲 松山 有隆	有する専門医資格（救急科専門医） 有する専門医資格（内科認定医）	専従する部署（救急科） 専従する部署（救急科）

ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、を塗りつぶす（のように）

ブロック研修 → 領域別研修（救急科）における研修期間（ 3 ）カ月

兼任研修 → どの研修と組み合わせるか（ ）  
 週当たり研修日数（ ）日、研修期間（ ）カ月  
 ※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

要件（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））	
<b>ケアの内容</b>	
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。	
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）	
<input type="checkbox"/> 救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設	
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）	
週当たり研修日数：（ 5 ）日/週	
※ブロック研修の場合のみ記入。 ※救急科（本研修）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。	
救急科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）	
※ブロック研修の場合のみ記入。 ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、内科は除く。	
内容	
日数	日/週

※研修施設が1箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

<b>6-5. 領域別研修：救急科</b>			
研修施設名	諏訪赤十字病院	病院病床数（ 455 ）床	年間救急搬送件数（3,401）件
指導医氏名	野首 元成	有する専門医資格（救急医学会専門医）	専従する部署（救急部）
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように）			
■ブロック研修 →領域別研修（救急科）における研修期間（ 3 ）カ月			
<input type="checkbox"/> 兼任研修 →どの研修と組み合わせるか（ ）			
週当たり研修日数（ ）日、研修期間（ ）カ月			
※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
<input type="checkbox"/> 救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
週当たり研修日数：（ 5 ）日/週			
※ブロック研修の場合のみ記入。 ※救急科（本研修）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
救急科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）			
※ブロック研修の場合のみ記入。 ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、内科は除く。			
内容			
日数	日/週		

<b>6-5. 領域別研修：救急科</b>			
研修施設名	山梨県立中央病院	病院病床数（651）床	年間救急搬送件数（6,000）件
指導医氏名	岩瀬 史明	有する専門医資格（救急科指導医）	専従する部署（救急科）
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように）			
■ブロック研修 →領域別研修（救急科）における研修期間（ 3 ）カ月			
<input type="checkbox"/> 兼任研修 →どの研修と組み合わせるか（ ）			
週当たり研修日数（ ）日、研修期間（ ）カ月			
※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
<b>ケアの内容</b>	
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。	
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）	
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設	
□救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に 1000 件以上）	
週当たり研修日数：（ 5 ）日／週	
※ブロック研修の場合のみ記入。 ※救急科（本研修）は週に 4 日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。	
救急科（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで）	
※ブロック研修の場合のみ記入。 ※並行して行う研修は総合診療専門研修 I・II、内科は除く。	
内容	
日数	日／週

<b>6-5. 領域別研修：救急科</b>			
研修施設名	東京医科大学 八王子医療センター	病院病床数（610）床	年間救急搬送件数（4,500）件
指導医氏名	新井 隆男	有する専門医資格（救急科専門医）	専従する部署（救命救急センター）
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、□を塗りつぶす（■のように）			
■ブロック研修 → 領域別研修（救急科）における研修期間（ 3 ）カ月			
□兼任研修 → どの研修と組み合わせるか（ ）			
週当たり研修日数（ ）日、研修期間（ ）カ月 ※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に 1000 件以上）			
週当たり研修日数：（ 5 ）日／週			
※ブロック研修の場合のみ記入。 ※救急科（本研修）は週に 4 日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
救急科（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで）			
※ブロック研修の場合のみ記入。 ※並行して行う研修は総合診療専門研修 I・II、内科は除く。			
内容			
日数	日／週		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-6. 領域別研修：その他						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	山田 武男
整形外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	白澤 進一
精神科/ 心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
産科婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	青山 和史
皮膚科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	光楽 文生
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	古谷 泰久
眼科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	水口 慎也
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
放射線科 (診断・撮影)	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
臨床検査・ 生理検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
その他 (脳神経外科)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	佐藤 浩企
その他 (病理科)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	浅野 功治
その他 (東洋医学科)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	長坂 和彦
その他 (緩和ケア科)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	大中 俊宏
その他 (麻酔科)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	石丸 美都彦
その他 (歯科口腔外科)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( 3 ) カ月	組合立諏訪中央病院	伊藤 隆一

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

## 7. 専攻医の評価方法

※形式的評価と総括的評価を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。

### ※形式的評価（評価頻度・評価者・評価方法）

- ・ 研修手帳の記録及び指導医との振り返りセッションを定期的実施する（頻度：3-6 か月に 1 回以上）
- ・ 最良作品型ポートフォリオ作成の支援を通じた指導を行う（頻度：3-6 か月に 1 回以上）
- ・ 作成した最良作品型ポートフォリオの発表会を行う（頻度：年 2-4 回 参加者の範囲：専攻医指導医のみ～多職種、域内外専攻医・医師を含めた会も開催）
- ・ 実際の業務に基づいた評価（Workplace-based assessment）を定期的実施する（頻度：3-6 か月に 1 回以上）
- ・ 多職種による 360 度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する
- ・ 年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する
- ・ ローテーション研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的に支援するメンタリングシステムを構築する
- ・ メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する

### ※総括的評価（評価時期・評価者・評価方法）

- ・ 総合診療専門研修 I・II の研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を指導医が実施する。
- ・ 内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム（Web 版研修手帳）による登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、プログラム責任者に報告する。
- ・ 3ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する
- ・ 3ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する
- ・ 以下の基準でプログラム責任者はプログラム全体の修了評価を実施する
  - (1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修 I および II 各 6 ヶ月以上・合計 18 ヶ月以上、内科研修 6 ヶ月以上、小児科研修 3 ヶ月以上、救急科研修 3 ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に足る評価が得られている
  - (2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した最良作品型ポートフォリオを通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している
  - (3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達している
 なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による 360 度評価（コミュニケーション、チームワーク、公益に資する職業規範）の結果も重視する

### ※研修修了認定の方法（総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー）

修了時に研修管理委員会にて評価を行い、修了判定を行う。

組合立諏訪中央病院委員	プログラム責任者 (研修管理委員会委員長)	奥 知久
	プログラム副責任者	蓑田 正祐
	総合診療 II 分野責任者	佐藤 泰吾
	内科分野責任者	山中 克郎
	救急科分野責任者	今井 拓
	小児科分野責任者	武井 義親
	看護部責任者	田島 由美子
	薬剤部責任者	秋月 茂樹
	技術部責任者	柳澤 安毅
	事務部責任者	仲本 権一
連携施設担当委員	リバーサイドクリニック	安藤 親男
	原村診療所	安藤 公二
	富士見高原医療福祉センター	安達 互
	国保依田窪病院	須山 和弘
	諏訪赤十字病院	酒井 龍一
	山梨県立中央病院	岩瀬 史明
	東京医科大学八王子医療センター	新井 隆男

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

## 8. プログラムの質の向上・維持の方法

※質向上や維持のための情報源・その情報をどのように用いるか

研修プログラム管理委員会を年 3 回諏訪中央病院で開催して連携施設を含めた研修中の評価を行う。委員会の開催時期は（開始時(4-5 月頃)、中間(9-11 月頃)、修了時(1-3 月頃)）とする。

専攻医から個々の指導医に対する評価

評価の時期（各ローテーション修了時、360 度評価等と合わせて行う）

評価の頻度（各ローテーション修了時（3-6 か月に 1 度））

評価結果の利用法（プログラム責任者より各指導医にフィードバック）

研修プログラムに対する評価

評価の時期（年度末）

評価の頻度（年 1 回）

評価結果の利用法（研修管理委員会で検討し修正）